

2017年度 第2四半期(上半期)報告 説明資料

2017年11月24日
明治安田生命保険相互会社

I. 2017年度上半期業績のポイント	P 2
II. 明治安田生命グループの業績	
1. グループ保険料	P 3
2. グループ基礎利益	P 4
3. 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)	P 5
4. 連結損益計算書・連結貸借対照表	P 6
III. 明治安田生命単体の業績	
1. 保険料等収入	P 7
2. 年換算保険料 (個人保険・個人年金保険)	P 8
3. 保有契約高 (団体保険・団体年金保険)	P 9
4. 基礎利益	P 10
5. 資産運用収支	P 11
6. 健全性指標・企業価値 (EEV)	P 12
7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準	P 13
8. 契約クオリティ (解約・失効・減額率、総合継続率)	P 14
9. 損益計算書・貸借対照表	P 15
IV. スタンコープ社の業績【参考】	
1. スタンコープ社の保険料収入、基礎利益相当額、当期純利益	P 16
2. 損益計算書・貸借対照表 (スタンコープ社)	P 17
V. 2017年度業績見通し	P 18
VI. トピックス	P 19~P 23
1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして	
2. 「お客さまとの絆」	
3. 「地域社会との絆」	
4. 「働く仲間との絆」	
5. ERMに基づく経営管理	

I. 2017年度上半期業績のポイント

○明治安田生命3カ年プログラム「MYイノベーション2020」を推進

- ・ 2017年4月に新たに制定した新経営理念「確かな安心を、いつまでも」および新企業ビジョン「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現に向けて、同年4月から「成長性」「収益性」「健全性」のバランスを取りつつ、企業価値の安定的かつ着実な向上をめざす3カ年プログラム「MYイノベーション2020」を推進
- ・ 国内長期金利は、日本銀行のイールドカーブ・コントロールのもと、0%付近で推移しており、超低金利環境が継続。超低金利環境下における積極的な資産の積上げは、将来の逆ざやや国内金利上昇時のリスク増加につながる可能性があるため、計画的な資産・負債のコントロールを継続
- ・ 国内では成長が見込まれる「第三分野」「高齢者・退職者」「女性」「投資型商品」の4つを重点マーケットと位置づけ、医療・介護等の第三分野・保障性商品の販売量拡大と、お客さま数の拡大に取り組み。海外では、グループ経営管理態勢の強化を図るとともに、既存投資先の収益力強化に資する取組みを推進

○明治安田生命グループベースで増収増益を達成。基礎利益は、グループ・単体ともに過去最高益を達成

- ・ 2016年3月に子会社化したスタンコープ社の業績貢献等により、グループベースでの増収増益を達成
- ・ 明治安田生命単体の基礎利益は、効果的な資産配分に加え、対前年で為替が円安に推移したこと等による利息及び配当金等収入の増加が、利差益拡大に貢献し、大幅増益。これにより、グループ・単体ともに明治安田生命発足以来の最高益を達成

○2017年度通期では、グループベース・明治安田生命単体ともに増収増益の見通し

- ・ 2017年度業績見通しは、本年8月から発売した外貨建て保険や、第三分野商品の拡販、スタンコープ社の業績貢献等により、グループベース・明治安田生命単体ともに増収増益の見通し
- ・ 基礎利益については、前回見通し（2016年度決算報告時）から上方修正

Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

1. グループ保険料

■ グループ保険料

(単位：億円)

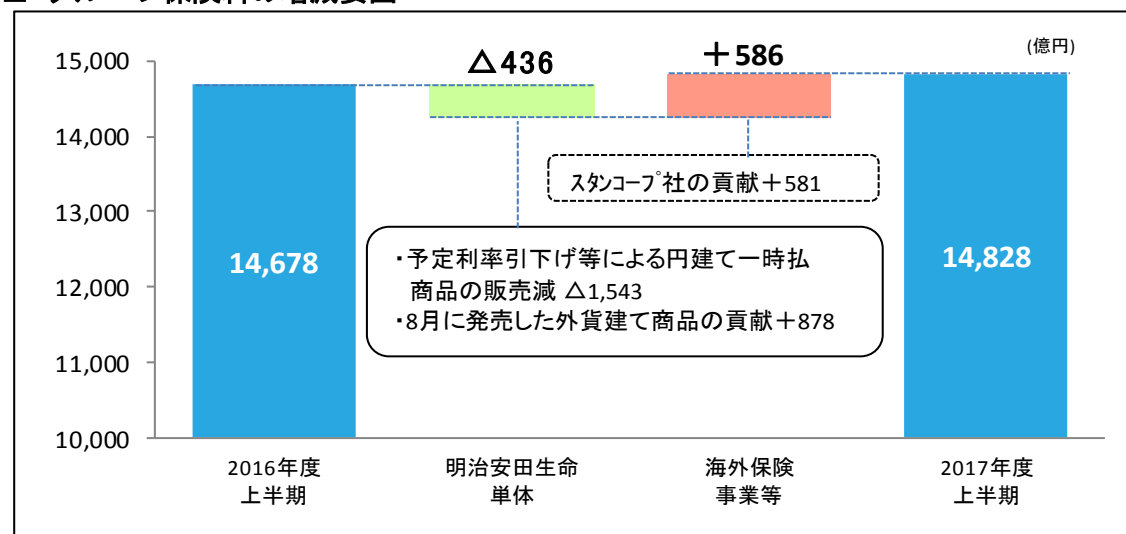
	2017年度 上半期		前年同期比	2016年度 上半期
グループ保険料 ^(注1)	14,828	+1.0%		14,678
明治安田生命単体	13,326	△3.2%		13,763
海外保険事業等 ^(注2)	1,501	+64.1%		915
うちスタンコープ社 ^(注3)	1,377	+73.1%		796

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

(注3) スタンコープ社の2016年度上半期は3月(株式取得月)から6月までの4ヵ月分

■ グループ保険料の増減要因



○グループ保険料は、1兆4,828億円と前年同期比1.0%の増加

・2016年3月に子会社化したスタンコープ社の業績が貢献

○グループ保険料のうち、海外保険事業等は、1,501億円と前年同期比64.1%増加

・グループ保険料に占める海外保険事業等の割合は、10.1% (前年同期差+3.9ポイント) と順調に伸展

Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

2. グループ基礎利益

■ グループ基礎利益

(単位：億円)

	2017年度 上半期		前年同期比	2016年度 上半期	
グループ基礎利益 ^(注1)	2,732	+24.7%		2,192	
うち明治安田生命単体	2,571	+22.5%		2,098	
うち海外保険事業等 ^(注2)	213	+44.4%		147	
うちスタンコープ社 ^(注3)	138	+76.7%		78	

(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

(注3) スタンコープ社の2016年度上半期は3月(株式取得月)から6月までの4ヵ月分

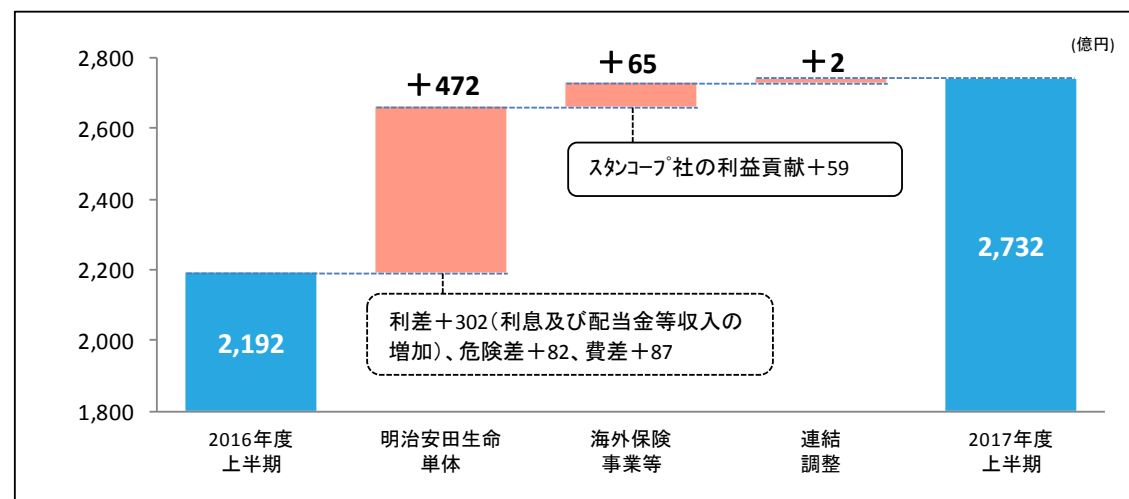
○グループ基礎利益は、2,732億円と前年同期比で24.7%増加し、上半期ベースで明治安田生命発足以来の過去最高益を達成

・明治安田生命単体の増益およびスタンコープ社の利益貢献が寄与

○グループ基礎利益のうち、海外保険事業等は213億円と前年同期比44.4%増加

・グループ基礎利益に占める海外保険事業等の割合は、7.8%(前年同期差+1.1ポイント)と順調に伸展

■ グループ基礎利益の増減要因



II. 明治安田生命グループの業績

3. 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)

■ 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV) (単位:%、億円)

	2017年 上半期末		前年度末差	2016年度末
連結ソルベンシー・マージン比率 (注1)	1,012.9	+14.0	ポイント	998.9
EEV (注2)	50,005	+4,716		45,288
うち明治安田生命単体	51,723	+4,591		47,132
うちスタンコープ社	4,308	+53		4,255

(注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

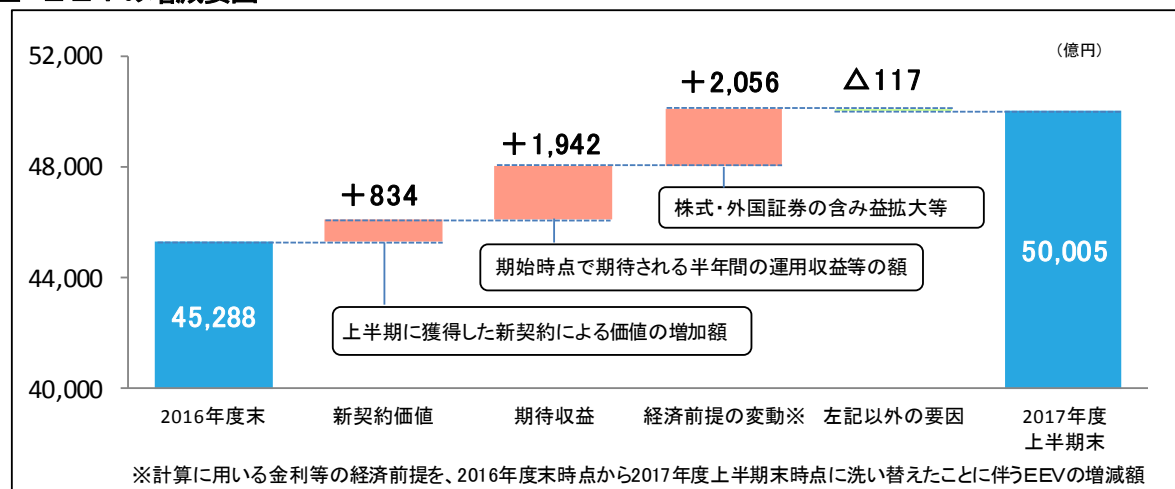
(注2) 「ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)」とは、生命保険会社の企業価値を表わす指標の一つであり、保有契約から見込まれる将来利益の現在の価値や、保有資産の含み損益等で構成

○連結ソルベンシー・マージン比率は、1,012.9%と引き続き高い健全性を維持

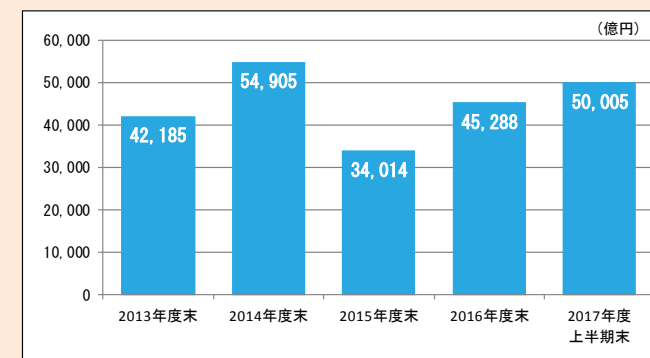
○ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV) は、5兆5億円と前年度末差4,716億円の増加

- ・一部の貯蓄性商品で予定利率を引き下げたことに伴う新契約価値の増加や、株式・外国証券の含み益拡大が、EEVの増加に寄与
- ・日銀のマイナス金利政策導入前(2014年度末)の水準まで回復

■ EEVの増減要因



■ EEVの推移



II. 明治安田生命グループの業績

4. 連結損益計算書・連結貸借対照表

■ 連結損益計算書（要約）

	2017年度	
	上半期	前年同期比
経常収益（A）	20,281	+4.6%
うち保険料等収入	14,828	+1.0%
うち資産運用収益	4,771	+19.3%
経常費用（B）	18,433	△1.4%
うち保険金等支払金	12,133	+5.4%
うち責任準備金等繰入額	2,130	△12.7%
うち資産運用費用	930	△45.6%
うち事業費	2,349	+10.3%
経常利益（A-B）	1,847	+166.4%
特別損益	△701	—
法人税等合計	126	△18.3%
非支配株主に帰属する中間純剰余	2	△52.7%
親会社に帰属する中間純剰余	1,017	△5.2%

（単位：億円）

2016年度
上半期
19,397
14,678
3,999
18,704
11,517
2,439
1,710
2,130
693
539
155
4
1,073

■ 連結貸借対照表（要約）

	2017年度		2016年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	408,060	+3,932	404,127
うち現預金・コールローン	6,508	+552	5,955
うち有価証券	325,054	+4,593	320,460
うち貸付金	53,558	△667	54,226
うち有形固定資産	9,188	△43	9,231
うち無形固定資産	4,859	△314	5,173
負債の部合計	367,160	+3,476	363,684
うち保険契約準備金	345,891	+2,871	343,020
うち責任準備金	335,754	+2,426	333,327
うち社債	4,075	△22	4,097
うちその他負債	4,755	△556	5,312
うち価格変動準備金	6,472	+689	5,782
うち繰延税金負債	4,837	+499	4,337
純資産の部合計	40,900	+456	40,443
うち基金・基金償却積立金	8,800	+500	8,300
うち連結剰余金	3,448	△1,698	5,147
うちその他有価証券評価差額金	27,285	+1,859	25,425

（単位：億円）

※資産の部合計は、40兆8,060億円（前年度末比1.0%増）となりました。主な資産構成は、有価証券32兆5,054億円（同1.4%増）、貸付金が5兆3,558億円（同1.2%減）です。

負債の部合計は、36兆7,160億円（同1.0%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は34兆5,891億円（同0.8%増）となりました。

純資産の部合計は、4兆900億円（同1.1%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,800億円（同6.0%増）、その他有価証券評価差額金は2兆7,285億円（同7.3%増）となりました。

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

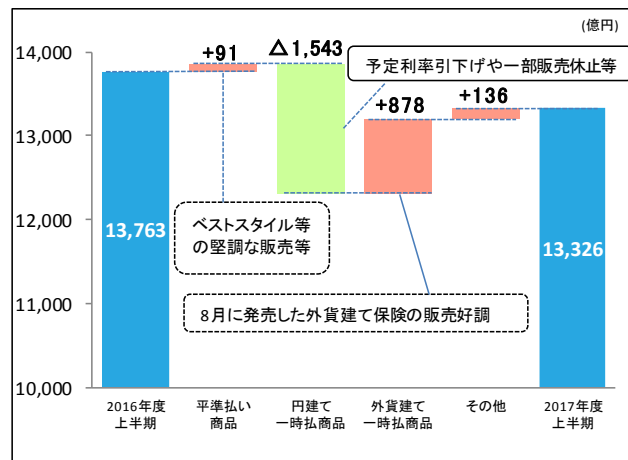
(単位：億円)

	2017年度 上半期		前年同期比	2016年度 上半期
保険料等収入	13,326		△3.2%	13,763
うち個人保険・個人年金保険	8,114		△7.4%	8,765
うち営業職員チャンネル	6,484		△1.8%	6,605
平準払商品	5,984		+1.2%	5,912
一時払商品	499		△27.9%	693
うち銀行窓販チャンネル	1,442		△23.9%	1,894
うち団体保険	1,550		+0.3%	1,545
うち団体年金保険	3,483		+6.6%	3,268

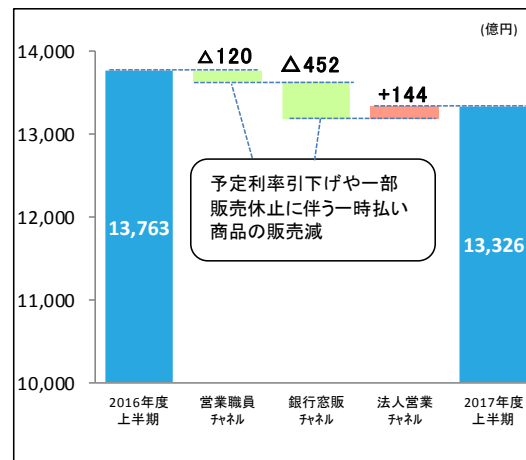
○保険料等収入は、1兆3,326億円と前年同期比3.2%減少

- ・標準利率の引き下げ等に伴い、昨年7月に一時払貯蓄性商品、本年4月に平準払貯蓄性商品において予定利率引下げや一部商品の販売休止等を実施したこと等により減収となるも、計画どおり進捗
- ・営業職員チャンネルの平準払商品は、主力の「ベストスタイル」等を中心に堅調に推移。前年同期比1.2%増加
- ・本年8月に新たに販売した外貨建て保険が好調に推移。足下の保険料等収入は反転基調

■ 保険料等収入の増減要因



■ 販売チャンネル別の増減要因



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

2. 年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2017年度 上半期		前年同期比	2016年度 上半期	
新契約年換算保険料	602	△27.0%		824	
うち営業職員チャンネル	513	△16.4%		614	
うち銀行窓販チャンネル	76	△60.9%		195	
うち第三分野 ^(注)	186	△5.7%		197	

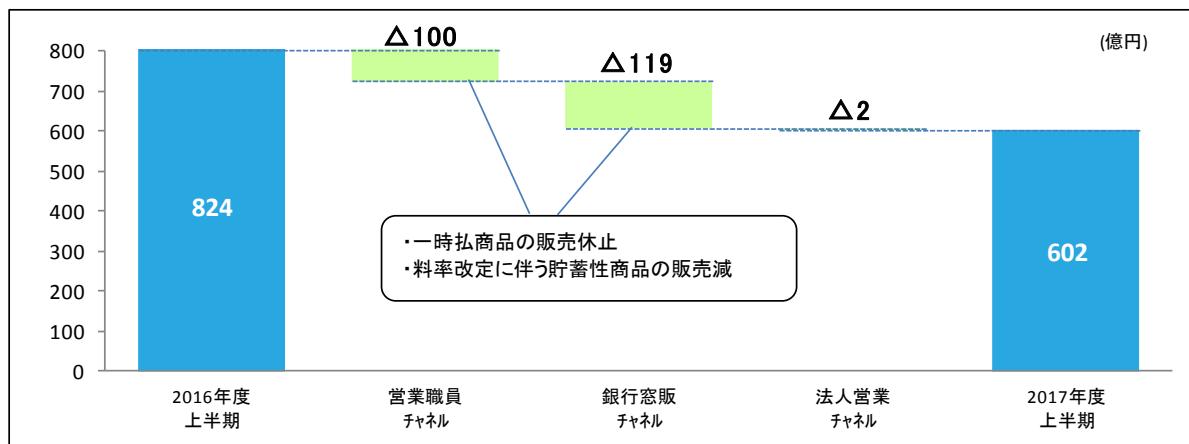
（注）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2017年度 上半期末		前年度末比	2016年度末	
保有契約年換算保険料	22,481	△0.1%		22,500	
うち営業職員チャンネル	16,143	+0.3%		16,099	
うち銀行窓販チャンネル	5,888	△1.1%		5,952	

■ 新契約年換算保険料の増減要因（個人保険・個人年金保険）



○新契約年換算保険料は、602億円と前年同期比27.0%減少

・保険料等収入と同様に、予定利率引下げや一部商品の販売休止の影響から、銀行窓販チャンネルを中心に大幅減少となるも、計画どおりの進捗

○営業職員チャンネルの保有契約年換算保険料は、契約クオリティの改善等により、前年度末比0.3%増加

○中期経営計画の経営目標の一つとする「お客さま数の拡大（営業職員チャンネル等）」は、昨年10月に発売した「かんたん保険シリーズ ライト！ By 明治安田生命」の好調等により、上半期末690万人（前年度末差+9万人）と順調に拡大

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

3. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

	2017年度 上半期末		前年度末比	2016年度末
団体保険	1,134,945		+0.5%	1,129,569
団体年金保険	75,373		+1.3%	74,417
（国内グループ） ^{（注）}	87,311		+1.7%	85,870

（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

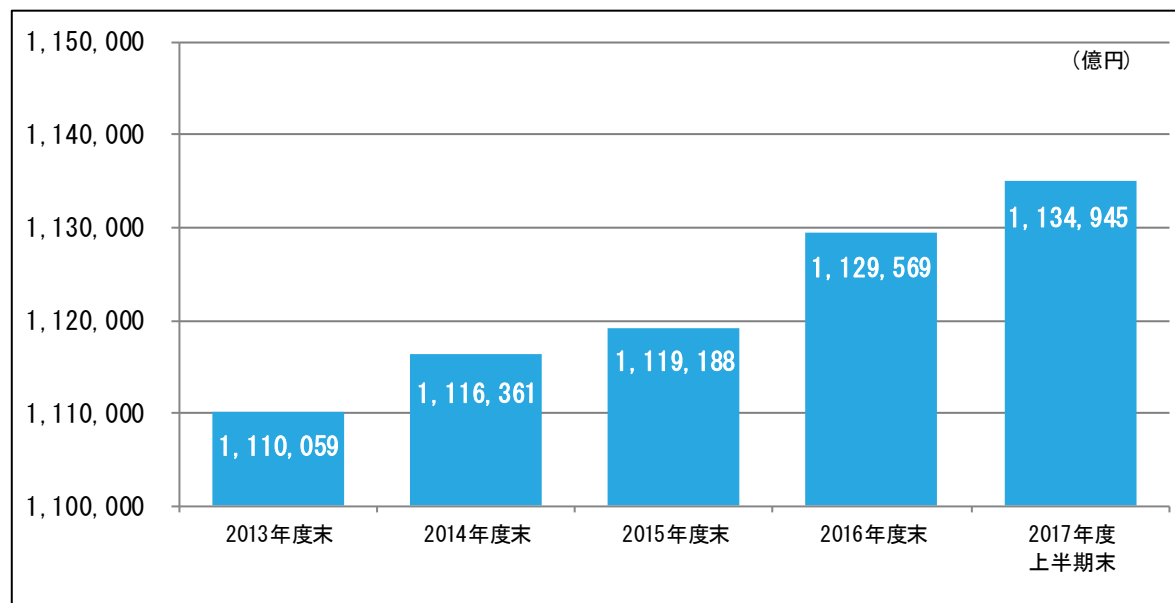
（単位：億円）

○団体保険は、1兆134億945万円と前年度末比0.5%増加

・引き続き業界トップシェアを堅持

○団体年金は、7兆5373億円と前年度末比1.3%増加

■ 団体保険の保有契約高の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

4. 基礎利益

■ 基礎利益等の状況

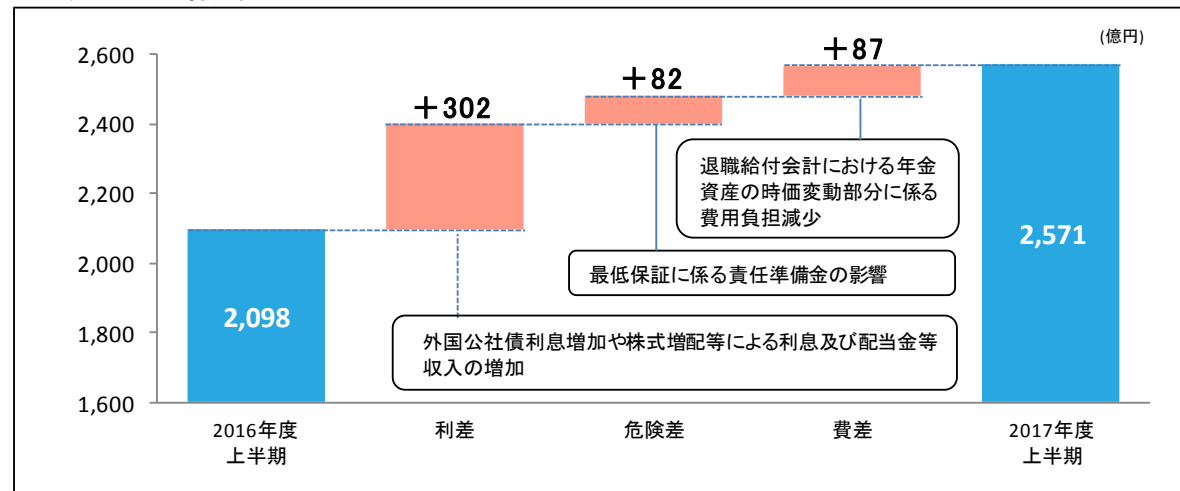
(単位：億円)

	2017年度 上半期		前年同期差	2016年度 上半期
基礎利益 (A) (注1)	2,571	+472		2,098
利差	974	+302		671
危険差	1,481	+82		1,398
費差	115	+87		28
キャピタル損益 (B) (注1)	△538	+623		△1,161
臨時損益 (C) (注2)	△212	△5		△207
経常利益 (A+B+C)	1,820	+1,090		729

(注1) 2017年度上半期報告より、基礎利益からマーケット・ヴァリュエーション・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額および外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額を除く。なお、この変更を2016年度上半期に適用すると、2016年度上半期の基礎利益は30億円増加、キャピタル損益は30億円減少

(注2) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

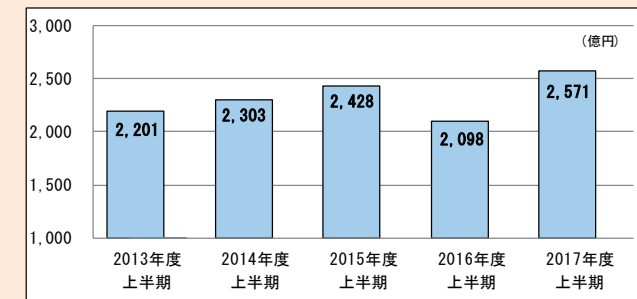
■ 基礎利益の増減要因



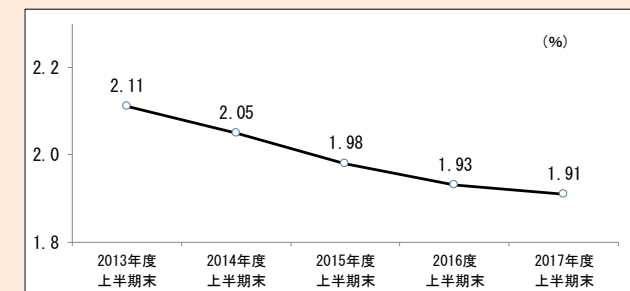
○基礎利益は、2,571億円と前年同期差で472億円増加

- ・上半期ベースで明治安田生命発足以来の過去最高益を達成
- ・効果的な資産配分に加え、為替が前年同期に比べ円安に推移したこと等による利息及び配当金等収入の増加が、利差益拡大に貢献

■ 基礎利益の推移



■ 平均予定利率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

5. 資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

	2017年度		2016年度
	上半期	前年同期差	
資産運用収支（全社）	3,643	+1,443	2,119
資産運用収支（一般勘定）	3,287	+938	2,349
資産運用収益	4,068	+249	3,819
利息及び配当金等収入	3,758	+320	3,438
有価証券売却益	30	△54	84
有価証券償還益	261	△28	289
資産運用費用	781	△688	1,469
有価証券売却損	103	△163	267
有価証券評価損	5	△626	632
金融派生商品費用	456	+112	344

○資産運用収支（全社）は、3,643億円と前年同期差1,443億円増加

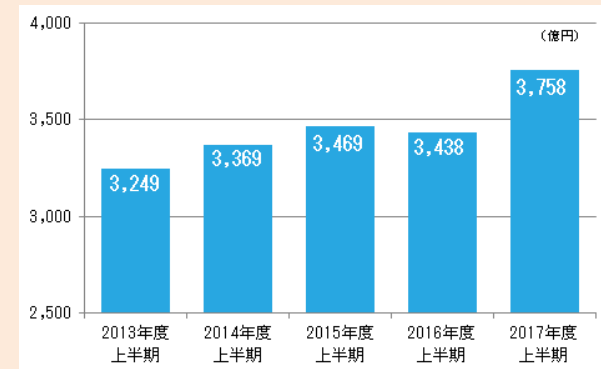
○利息及び配当金等収入は、3,758億円と前年同期差320億円増加

- ・前年同期に比べ為替が円安基調で推移したこと等から外国公社債の利息収入が増加したほか、株式相場が堅調に推移するなか、株式の増配や投資信託分配金の増加がプラスに寄与

【参考】2017年度上半期報告の運用環境

	2017年度		2016年度	2016年度末
	上半期末	前年同期末差		
TOPIX	1,674.75	+351.97	1,322.78	1,512.60
日経平均株価（円）	20,356.28	+3,906.44	16,449.84	18,909.26
10年国債利回り（%）	0.060	+0.145	△0.085	0.065
米国10年国債利回り（%）	2.334	+0.740	1.594	2.387
円相場（円/\$）	112.73	+11.61	101.12	112.19
円相場（円/€）	132.85	+19.49	113.36	119.79

■ 利息及び配当金等収入の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

6. 健全性指標・企業価値（EEV）

■ ソルベンシー・マージン比率

（単位：％）

	2017年度 上半期末	前年度末差
ソルベンシー・マージン比率	953.3	+7.8 ポイント

2016年度末
945.5

■ オンバランス自己資本

（単位：億円）

	2017年度 上半期末	前年度末差
オンバランス自己資本（注）	24,908	+267

2016年度末
24,641

（注）所定の内部留保と外部調達資本の合計額

■ 実質純資産額

（単位：億円、％）

	2017年度 上半期末	前年度末差
実質純資産額	97,969	+2,329
一般勘定資産に対する比率	26.4	+0.4 ポイント

2016年度末
95,639
26.0

■ 企業価値（EEV）

（単位：億円）

	2017年度 上半期末	年度始差
企業価値（EEV）（注）	48,645	1,513

2017年度始
47,132

（注）企業価値（EEV）＝保有契約価値＋修正純資産＝生命保険会社の成長性・収益性・健全性を総合的に示す指標。明治安田生命単体の中期経営計画の経営目標であり、経済環境の前提を2016年度末で固定していることから、Ⅱ. 3に記載のヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）とは数値が相違

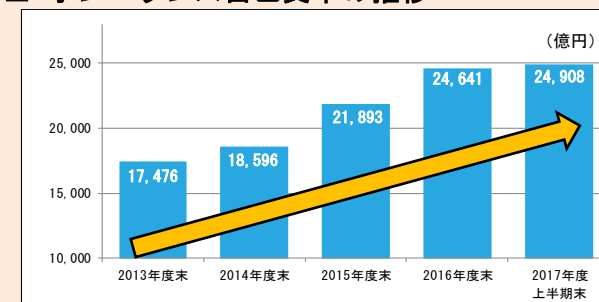
○ソルベンシー・マージン比率は、953.3％と前年度末差7.8ポイント増加

- ・価格変動準備金等の積み増しにより、オンバランス自己資本の充実を図り、引き続き高い財務健全性を維持

○オンバランス自己資本は、2兆4,908億円と前年度末差267億円増加

- ・本年8月の基金1,000億円の償還時に基金償却準備金を基金償却積立金に振り替えるとともに、新たに基金500億円を募集。加えて、価格変動準備金等の積み増しを実施

■ オンバランス自己資本の推移



○実質純資産額は、9兆7,969億円と前年度末差2,329億円増加

○企業価値（EEV）は、4兆8,645億円と年度始差1,513億円増加

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2017年度 上半期末		前年度末差	2016年度末
一般勘定資産全体の含み損益	63,059	+2,650		60,409
うち時価のある有価証券 ^(注)	59,054	+2,385		56,669
うち公社債	25,656	△221		25,877
うち株式	24,813	+1,331		23,482
うち外国証券	7,834	+1,093		6,741

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合

	2017年度上半期末	2016年度末
日経平均株価ベース	8,000円程度	8,000円程度
TOPIXベース	660ポイント程度	650ポイント程度

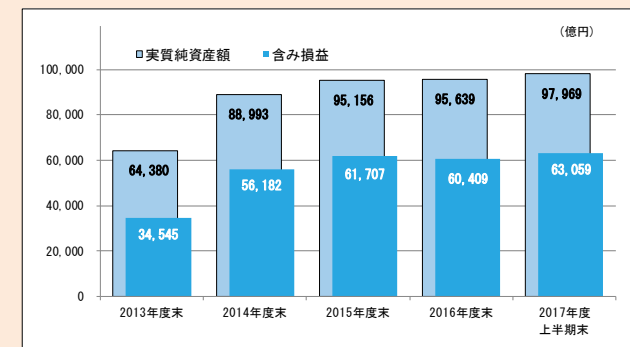
○一般勘定資産全体の含み損益は6兆3,059億円と前年度末差2,650億円増加

・内外株価上昇や海外金利低下、円安等に伴い株式および外国証券の含み益が増加

○株式の含み損益は、月中平均価格ベースで2兆4,813億円(前年度末差+1,331億円)、期末時価ベースでは2兆5,909億円(同+3,679億円)

○国内株式含み損益ゼロ水準は、8,000円程度

■ 含み損益の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

8. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2017年度 上半期	
		前年同期差
解約・失効・減額率	1.78	△0.07ポイント

2016年度 上半期
1.86

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

■ 総合継続率^(注2)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2017年度 上半期	
		前年同期差
13月目総合継続率	95.5	△0.1ポイント
25月目総合継続率	89.8	+0.3ポイント

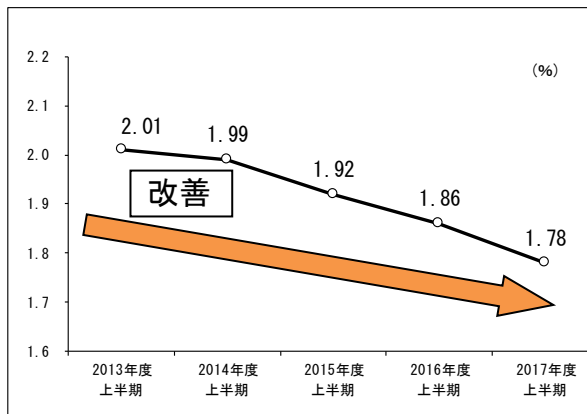
2016年度 上半期
95.6
89.5

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

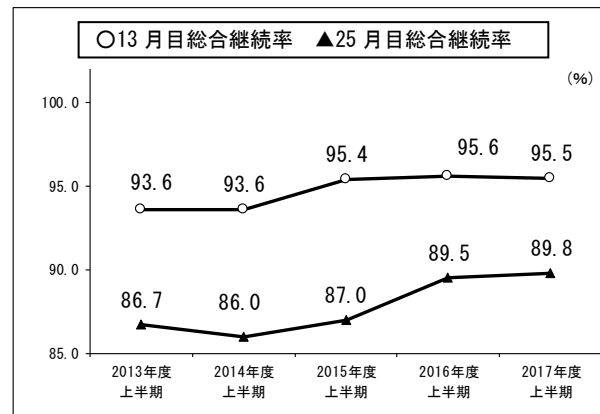
○契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移

- ・対面によりご契約内容やご請求有無を確認する「定期点検」等を通じた積極的なアフターフォローを推進
- ・解約・失効・減額率は、1.78%と前年同期差0.07ポイント改善
- ・総合継続率は、13月目・25月目総合継続率ともに高水準を維持

■ 解約・失効・減額率の推移



■ 総合継続率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

9. 損益計算書・貸借対照表

■ 単体損益計算書（要約）

	2017年度	
	上半期	前年同期比
経常収益 (A)	18,295	+0.5%
うち保険料等収入	13,326	△3.2%
うち資産運用収益	4,424	+15.8%
経常費用 (B)	16,475	△5.7%
うち保険金等支払金※	11,047	+1.7%
うち責任準備金等繰入額	2,117	△12.7%
うち資産運用費用	781	△51.8%
うち事業費	1,812	+1.3%
経常利益 (A-B)	1,820	+149.4%
特別損益	△700	—
法人税等合計	92	△32.6%
中間純剰余	1,027	△9.2%

(単位：億円)

2016年度 上半期
18,199
13,763
3,819
17,469
10,866
2,425
1,619
1,789
729
538
136
1,131

※保険金等支払金の内訳

	2017年度	
	上半期	前年同期比
保険金等支払金	11,047	+1.7%
うち保険金・給付金	5,442	+13.9%
うち年金	3,177	△0.0%
うち解約返戻金・その他返戻金	2,400	△16.7%

(単位：億円)

2016年度 上半期
10,866
4,776
3,178
2,882

■ 単体貸借対照表（要約）

	2017年度		2016年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	379,845	+4,230	375,614
うち現預金・コールローン	5,060	+925	4,135
うち有価証券	312,707	+4,073	308,634
うち貸付金	46,073	△746	46,819
うち有形固定資産	8,777	△46	8,824
うち無形固定資産	748	△20	769
負債の部合計	338,695	+3,656	335,038
うち保険契約準備金	320,086	+2,769	317,316
うち責任準備金	315,949	+2,117	313,832
うち社債	3,533	—	3,533
うちその他負債	3,693	△317	4,011
うち価格変動準備金	6,465	+689	5,775
うち繰延税金負債	3,895	+507	3,387
純資産の部合計	41,150	+574	40,576
うち基金・基金償却積立金	8,800	+500	8,300
うち剰余金	3,694	△1,689	5,383
うちその他有価証券評価差額金	27,133	+1,794	25,338

(単位：億円)

※資産の部合計は、37兆9,845億円（前年度末比1.1%増）となりました。主な資産構成は、有価証券31兆2,707億円（同1.3%増）、貸付金が4兆6,073億円（同1.6%減）です。

負債の部合計は、33兆8,695億円（同1.1%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は32兆86億円（同0.9%増）となりました。

純資産の部合計は、4兆1,150億円（同1.4%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,800億円（同6.0%増）、その他有価証券評価差額金は2兆7,133億円（同7.1%増）となりました。

IV. スタンコープ社の業績【参考】

1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位：億円)

	2017年度 上半期		前年同期比	2016年度 上半期	
保険料等収入	1,377	+73.1%		796	
基礎利益相当額 <small>(注2)</small>	138	+76.7%		78	
当期純利益 <small>(注3)</small>	55	+1,073.0%		4	

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月分。2016年度上半期は3月(株式取得月)から6月までの4ヵ月分

(注2) 基礎利益相当額は、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前の税引前利益からキャピタル損益や責任準備金の積み増し等の一時費用を控除したもの

(注3) 買収会計適用後

※2016年度上半期は2016年6月末の為替レート(1米ドル=102.91円)、2017年度上半期は2017年6月末の為替レート(1米ドル=112.00円)で円換算

※2016年度通期実績は、保険料等収入2,265億円、基礎利益相当額240億円、当期純利益71億円

○ 保険料等収入は1,377億円と前年同期比73.1%増加

・ 主力である団体保険事業を中心に堅調に推移

○ 基礎利益相当額は138億円と前年同期比

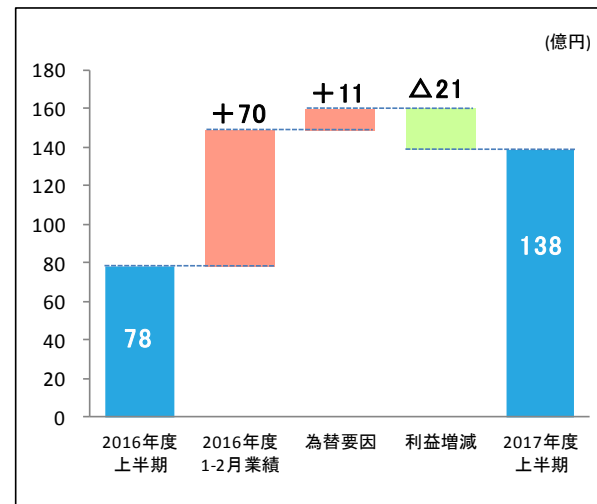
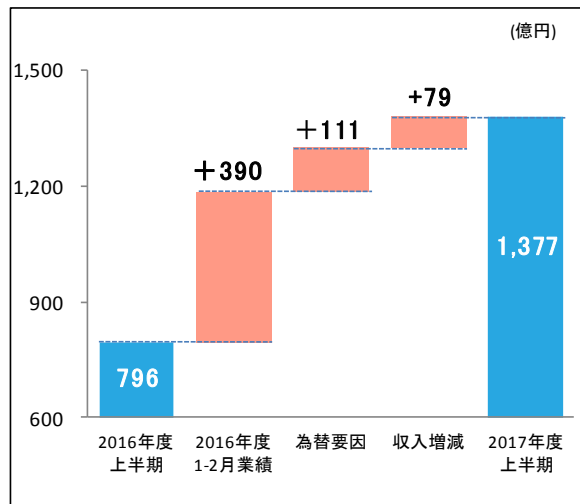
76.7%増加、当期純利益も55億円と前年同期比で増益

○ 2017年度通期の業績見通しにおいても、保険料等収入は増収、基礎利益相当額は増益の見通し。

当期純利益については、米国家定会計で求められる責任準備金算出の基礎率改定を受け、第3四半期に一部商品について責任準備金の積み増しを実施するものの、増益を確保する見通し

■ 保険料等収入の増減要因

■ 基礎利益相当額の増減要因



IV. スタンコープ社の業績【参考】

2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）

■ 損益計算書（要約）^(注1)

	2017年度 上半期 <small>(注2)</small>	2016年度 上半期 <small>(注3)</small>
経常収益 (A)	1,822	1,052
うち保険料等収入	1,377	796
うち資産運用収益	371	210
経常費用 (B)	1,744	1,053
うち保険金等支払金	1,027	599
うち責任準備金等繰入額	21	24
うち資産運用費用	142	87
うち事業費	437	256
経常利益 (A - B)	77	△0
特別損益	△0	△0
法人税等合計	21	△6
中間純剰余	55	4

(単位：億円)

■ 貸借対照表（要約）^(注1)

	2017年度 上半期末 <small>(注2)</small>	前年度末差	2016年度末 <small>(注4)</small>
資産の部合計	32,840	△225	33,065
うち現預金・コールローン	479	△297	776
うち有価証券	18,579	+541	18,037
うち貸付金	7,238	+83	7,155
うち有形固定資産	286	+6	279
うち無形固定資産	4,212	△256	4,468
負債の部合計	27,112	△38	27,150
うち保険契約準備金	25,122	+106	25,016
うち責任準備金	19,181	+314	18,866
うち社債	542	△22	564
うちその他負債	513	△83	596
うち繰延税金負債	842	△24	867
純資産の部合計	5,728	△186	5,915
うち資本剰余金	5,544	△222	5,766
うち利益剰余金	55	△15	71
うちその他有価証券評価差額金	104	+55	49

(単位：億円)

(注1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え。なお、スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、損益計算書は1月から6月の実績。2016年度上半期は3月（株式取得月）から6月までの4ヵ月分

(注2) 2017年6月末の為替レート(1米ドル=112.00円)で円換算

(注3) 2016年6月末の為替レート(1米ドル=102.91円)で円換算

(注4) 2016年12月末の為替レート(1米ドル=116.49円)で円換算

V. 業績見通し

2017年度業績見通し

■ グループ保険料の見通し

	2017年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2016年度 実績
		前年度比		
グループ保険料 (注1) (注3)	30,800億円程度	+7.4%程度	修正なし	28,663億円
うち明治安田生命単体	27,800億円程度	+6.2%程度	修正なし	26,158億円
うちスタンコープ社	2,700億円程度	+19.2%程度	—	2,265億円

■ グループ基礎利益の見通し

	2017年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2016年度 実績
		前年度比		
グループ基礎利益 (注2) (注3)	5,300億円程度	+6.8%程度	+200億円	4,962億円
うち明治安田生命単体	5,000億円程度	+5.8%程度	+200億円	4,723億円
うちスタンコープ社	300億円程度	+25.0%程度	—	240億円

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル110円

■ 企業価値（EEV）の見通し

	2017年度末	2017年度始
企業価値（EEV）	6%程度増加	47,132億円

○2017年度業績は、グループ・単体ともに「増収増益」の見通し

○明治安田生命単体の利息及び配当金等収入が計画を上回って推移していること等から、基礎利益は、グループ・単体ともに前回見通し（2016年度決算報告時）から200億円上方修正

○企業価値（EEV）は、6%程度増加の見通し（前回見通しからの変更なし）

VI. トピックス

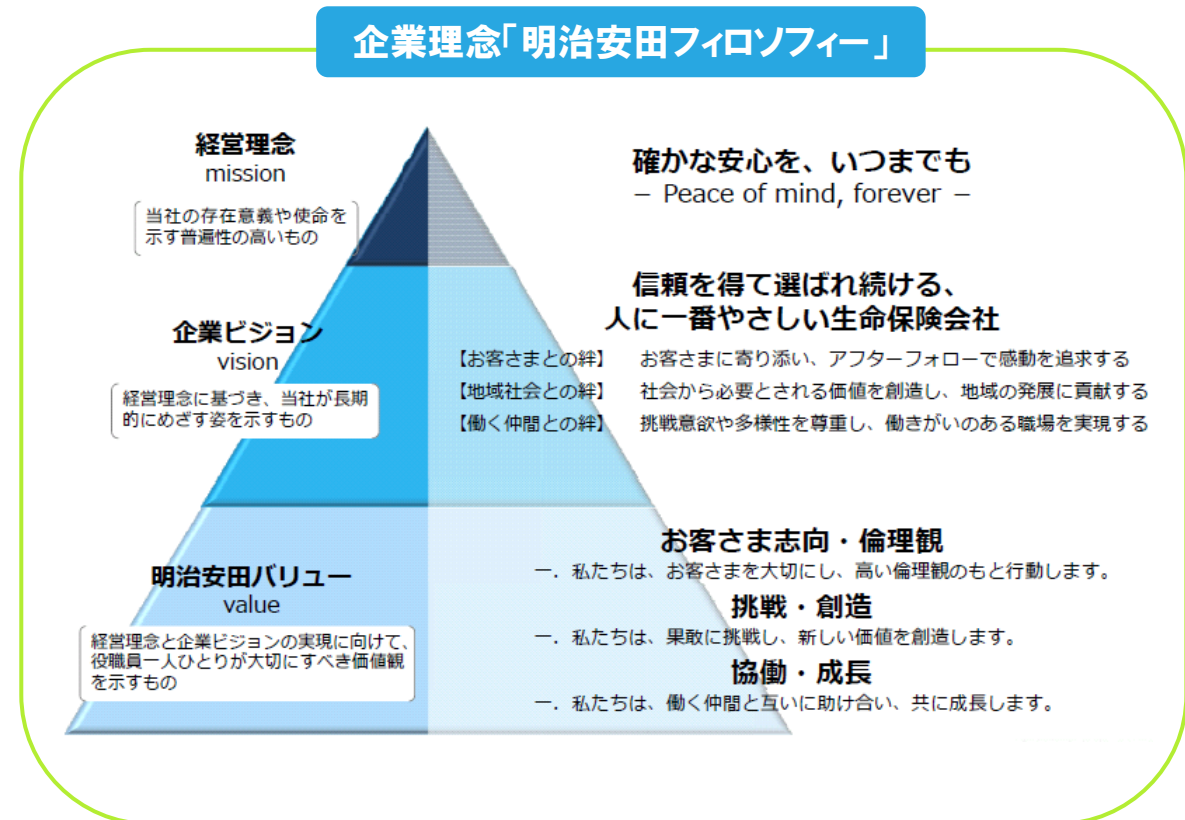
1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして

◆新企業理念の制定

- ・ 2017年4月に、新たな企業理念「明治安田フィロソフィー」を制定しました
- ・ お客さまに「確かな安心を、いつまでも」お届けすること。この使命のもと、「お客さまとの絆」・「地域社会との絆」・「働く仲間との絆」の3つの「絆」を大切に、当社は「人に一番やさしい生命保険会社」をめざした取組みを行なっています

◆「明治安田フィロソフィー」について

- ・ 企業理念「明治安田フィロソフィー」は、「経営理念」、「企業ビジョン」、「明治安田バリュー」の3層で構成
- ・ 当社の存在意義や使命を示す「経営理念」は、「確かな安心を、いつまでも」
- ・ 当社が長期的にめざす姿を示す「企業ビジョン」は、
「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」



VI. トピックス

2. 「お客さまとの絆」

◆MY安心ファミリー登録制度

- ・高齢のご契約者への連絡や大規模災害時におけるご契約者への連絡を確実にするための制度
- ・あらかじめご契約者以外の連絡先（第二連絡先）をご登録いただくことで、ご契約者との連絡が困難な場合等に、第二連絡先を通じてご契約者の最新の連絡先をご確認させていただく制度
- ・登録状況は、高齢のご契約者さまを中心として、約160万人（2017年9月末現在）

◆MY長寿ご契約点検制度

- ・超高齢社会における保険金・給付金のお支払いを確実にするための制度
 - ・長寿のお祝い等の節目（77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）等）に当社からはがきや電話を差しあげ、保険金等のご請求やご連絡先・受取人の変更の有無を確認。90歳以上の方には訪問による確認も実施
 - ・2017年7月には当制度の概要を記した「『MY長寿ご契約点検制度』の取組みについて」を作成
- なお、本パンフレットは当社公式ホームページでもご覧いただけます

<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/topics/mychouju/index.html>

◆外貨建て保険の発売

- ・2017年8月から「外貨建て保険」を営業職員チャネルおよび銀行窓販チャネルで発売
- ・国内の低金利環境が継続するなか、米国や豪州との金利差に着目し、外貨で運用することにより、お客さまの資産形成ニーズにお応え

◆「50歳からの終身医療保険」の発売

- ・2017年12月から「50歳からの終身医療保険」を営業職員チャネルで発売
- ・「シンプル」「わかりやすい」をコンセプトとしたセカンドライフ世代専用の医療保障商品

◆国内劣後債の発行

- ・財務基盤を充実させ、経営基盤をよりいっそう強固にすることで、ご契約者に確かな安心をお届けするよう、2017年11月に円建て劣後債1,000億円を発行



「MY安心ファミリー登録制度」
契約者ご本人と連絡がつかない場合に備えて、ご家族を第二の連絡先として登録。
明治安田生命では「第二連絡先」の登録をおすすめています。

明治安田生命

アフターフォロー

米ドル建一時払養老保険

5年ごと利差配当付一時払特別養老保険（指定通貨建）

わかりやすい、というやさしさ 50歳からの終身医療保険

5年ごと配当付終身医療保険（解約返戻金抑制型）

VI. トピックス

3. 「地域社会との絆」

◆「明治安田生命Jリーグ」

- ・「明治安田生命Jリーグ」の応援を通じて、地域に貢献するための活動を展開
- ・Jリーグの「地域に根差したスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに賛同し、2015年1月にタイトルパートナー契約を締結。今シーズンで3年目を迎える
- ・加えて、全国の86支社等において「明治安田生命Jリーグ」に所属する全54クラブ等（※）とスポンサー契約を締結
- ・2017シーズンは、11月中旬までに当社従業員と地域のお客さまあわせて約24万人がスタジアムに足を運びJクラブ等を応援

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ

◆全国各地で小学生を対象としたサッカー教室など、各種イベントを開催

- ・地元のJクラブ等のみならずの全面協力を得て、2017シーズンは、小学生を対象としたサッカー教室を10月末までに全国で121回開催し、約11,000人のお子さまや保護者の方々が参加
- ・あわせて、地元Jクラブやパートナー企業等のご協力のもと、フットサル大会やJリーグ選手OBの講演会等のイベントも開催

◆地方自治体等との連携協定

- ・地方自治体や地方金融機関等と地方創生に関する連携協定を締結し、地域社会への貢献活動に取組み



【新潟支社主催のアルビレックス新潟の試合の様子】



【小学生向けサッカー教室の様子（沖縄支社）】



【高知県との連携協定締結式の様子】

VI. トピックス

4. 「働く仲間との絆」

◆ 明治安田ビジネスプラス株式会社の設立

- ・ 当社では、さまざまな障がいのある方々が、やりがいを持って生き活きと働くことができるように、2017年6月に、障がい者雇用を促進するための新会社「明治安田ビジネスプラス株式会社」を設立
- ・ 2017年9月には、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定める「特例子会社(※)」の認定を取得
- ・ なお、上記に加え、全国の事業所でも障がい者雇用の機会を幅広く提供
※特例子会社とは、一定の要件を満たして厚生労働大臣の認定を受けた、障がい者の雇用に特別な配慮をした会社

◆ 「MY健康宣言」を策定

- ・ 「人に一番やさしい生命保険会社」として社会に貢献できるよう、生き活きと働きがいのある職場の実現と、従業員のこころと身体の健康づくりに努める健康増進経営を展開
- ・ 「働きがい」「働きやすさ」のある職場づくりを追求することを掲げ、「働き方改革」を通じた業務効率化による生産性の向上や労働時間管理の高度化を図り、従業員の健康増進に資する環境を整備

◆ あしながチャリティー&ウォーク

- ・ 親をなくした子どもたちの進学と心のケア支援を行なう取組み
- ・ あしなが育英会の協力のもと当社従業員がウォーキングおよびチャリティー募金を通じ、親をなくした子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を実施
- ・ 2016年度は総勢約3万8千人の従業員・家族等が参加



【明治安田ビジネスプラス株式会社の従業員】



【あしながチャリティー&ウォークの様子（2016年度・宮崎開催）】

VI. トピックス

5. ERMに基づく経営管理

◆成長性、収益性、健全性のバランスを取りつつ、企業価値の向上を図るために、ERM（Enterprise Risk Management）（※）の枠組みを活用し、2017年4月から開始した3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」を策定・運営
 具体的には、当社のリスクテイクの意思を定めた「リスクアペタイト」に基づき、「資本配賦運営」、「リスク・リターン運営」、「ORSA（自己資本充実度評価）」を一体的に運営して持続的な企業価値の向上に取り組む

※ERMとは、健全性を確保しつつ、適切なリスクテイク（リスクを取ること）とリスクに見合う収益を確保することで、会社として成長していくことをめざすための経営管理手法です

